

ココから始まる
まち育て
三郷と康生に学ぶ

三矢勝司

名古屋学院大学現代社会学部 准教授

岡崎まち育てセンター・リタ 理事

260702

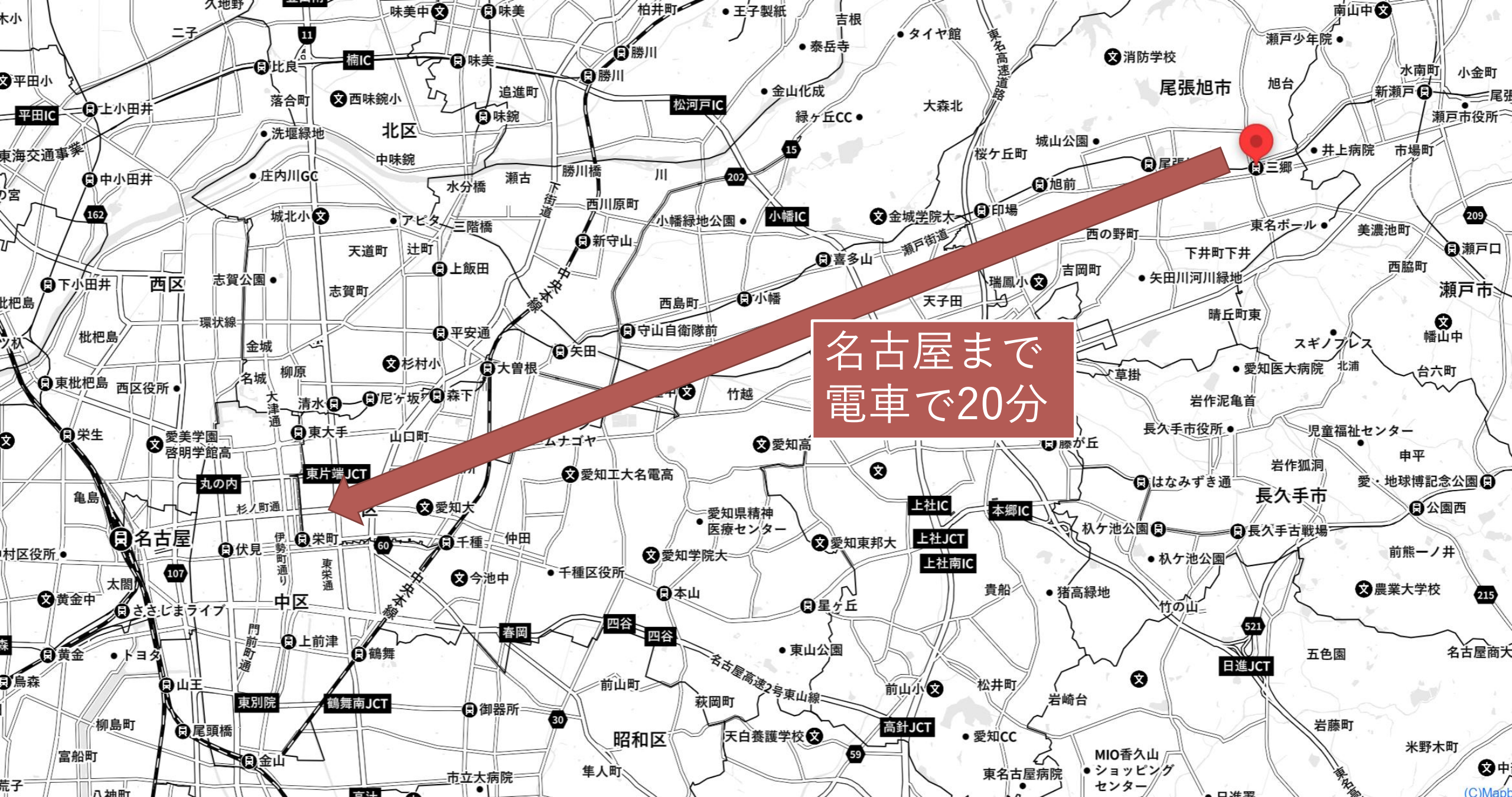
自己紹介

- ・ 羽根小学校に通っていましたが（木造校舎）→竜美ヶ丘小学校へ転校。
- ・ 名古屋工業大学で建築計画、千葉大学大学院で参加型まちづくりを学ぶ。
- ・ 千葉・東京で、建築事務所、まちづくりNPOに勤務。
- ・ 2005年に岡崎に戻り、2006年に岡崎まち育てセンター・りた設立。
- ・ （途中、2012から2014年に名古屋工業大学の特任助教として従事）
- ・ 2023年より、名古屋学院大学現代社会学部の准教授。都市 commons など
を教えています。

尾張旭 × 芸大

三郷駅前まち育て
プロジェクト





地図はヤフーマップ。

事例概要

- ・ 愛知県尾張旭市（人口約8万）の三郷駅前再開発事業（約1.3ha）に伴う市民参加事業「三郷駅前まち育てプロジェクト（以下、三郷PJ）」

- ・ 2009駅前再開発の検討開始
- ・ 2019三郷駅前地区市街地再開発準備組合発足。
- ・ 2021「三郷ならではの駅前構想」の必要性。

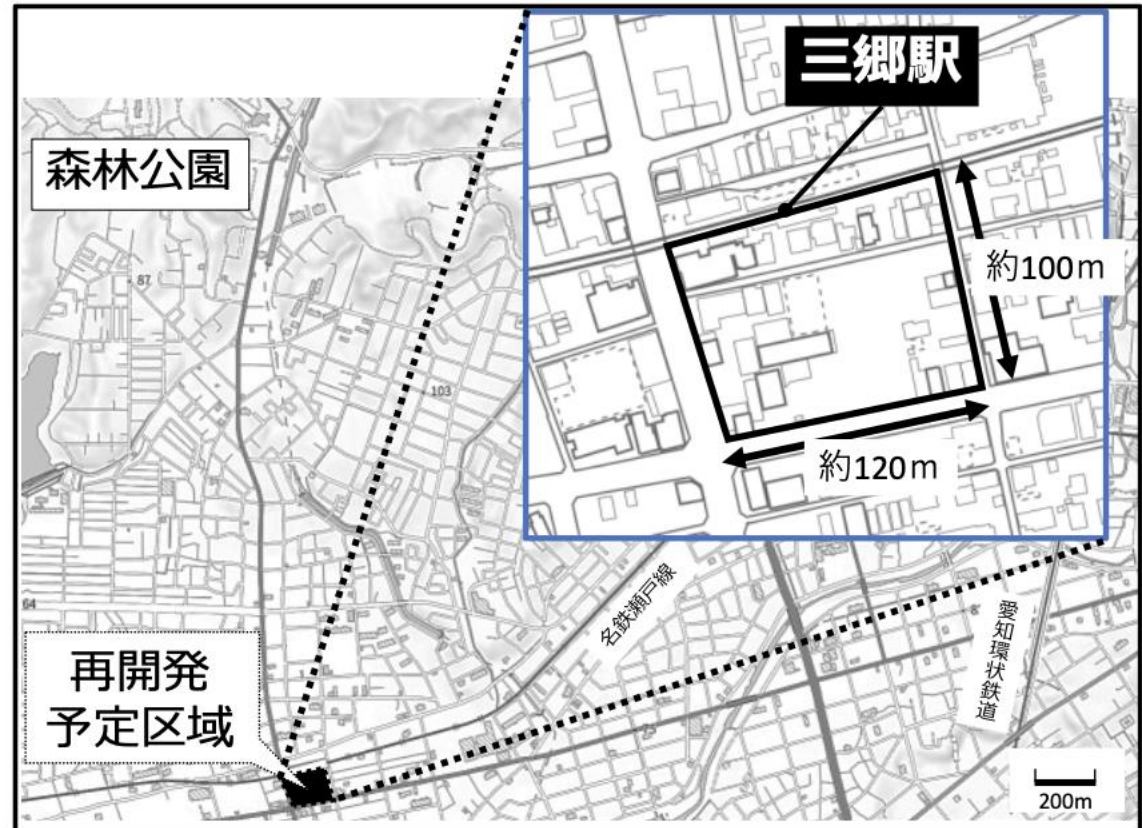


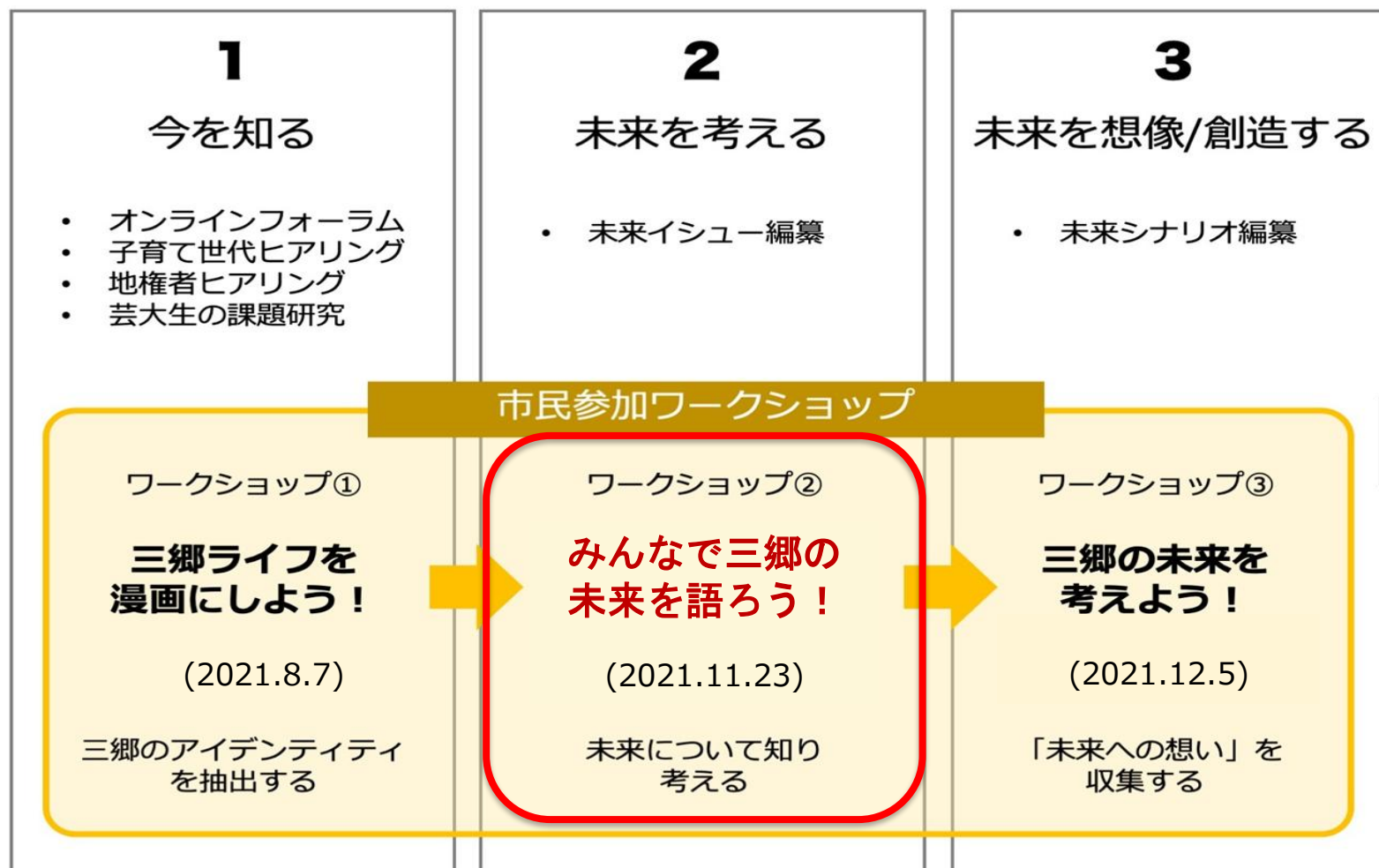
図1 三郷駅前再開発の周辺区域図

三郷駅前再開発事業の全体のスケジュール（尾張旭市）

- (1) 北街区（市事業）については、地権者とのヒアリングを継続し令和9年度の工事着手を目指しています。
- (2) 鉄道関連事業（市事業）については、名鉄と協定を締結し自由通路等の検討に着手しており、市街地再開発事業にあわせ令和7年度の工事着手を目指します。
- (3) 市街地再開発事業（組合事業）については、準備組合において令和5年度の事業計画認可・組合設立、令和9年度の工事完了を目指しています。

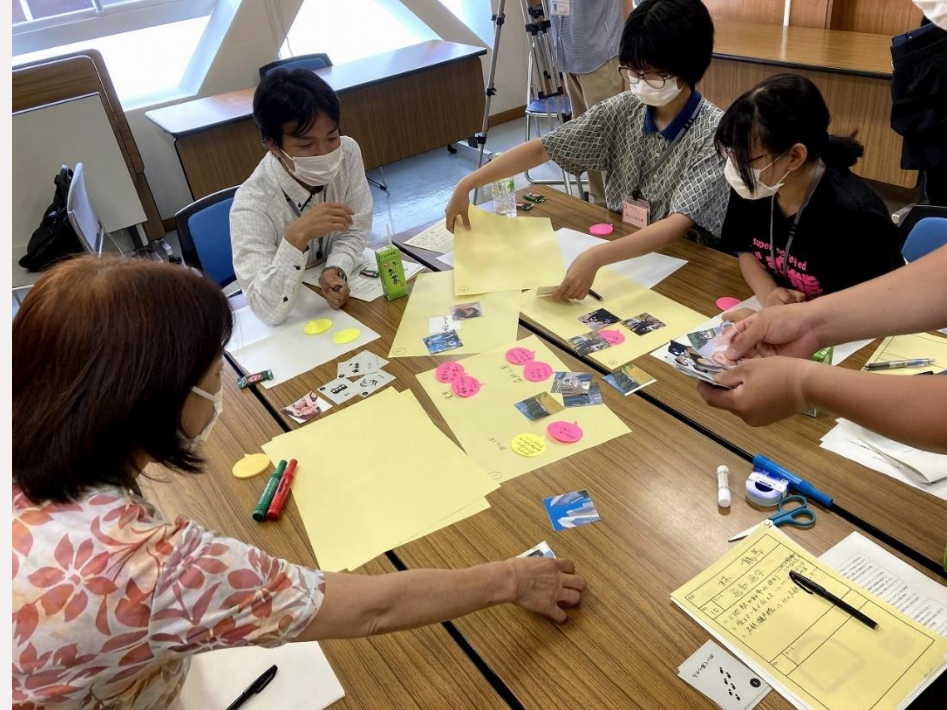


ワークショップの位置づけ



将来の三郷駅前開発と「コミュニティデザイン」への連携

ワークショップ1



ビジョン・ゲーム

- ・ 三郷らしさって、何だろう？を語り合う。
- ・ そのイメージに近い写真、図版を探す。
- ・ 図版を組み合わせて4コマ漫画にする。

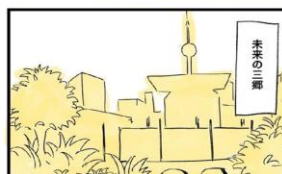
駅前の渋滞のせいで、両親
喧嘩して旅行気分が最悪！



Phase 2 : 三郷町のアイデンティティ探究

三郷の生活あるある漫画

変わるものと変わらないもの



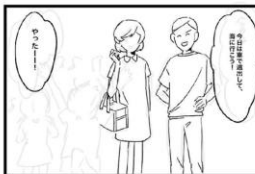
変わってほしくないものがある

近くの誰かが助けてくれる



助け合う御近所
人の温かさ

渋滞で台無し



渋滞といえば三郷
いつ解消するのか

子育てタウンの駅前



子育てしやすい
街の中心一駅前

いつか、帰ってきたくるまち



田園や自然が大切
だったと気付く

広い空がフロンティア



DXが切り開く未来



※県芸大3年生の力作

身近に自然のある街

田んぼがあっ
て
虫もいる。

森林公園は
家族の憩いの
場所

スーパーで
知らない
おばあちゃんに
声かけられた

子連れで
遊べる公園が
いっぱい

子育てしやすい街

近所の人が
見守ってくれる

ほどほど
田舎で
子育てに最適

田舎でも
都会でもない
ちょうど良さ

居心地良い
生活感のある街

ちょうどいい街

近所に
なんでも
あって便利

お勧めしない
けど、気に
入ってます。

人のつながりのある街

気軽に
話せる
人が多い街

子供が
怪我したら
近所の人が
知らせてくれた

アクセス便利な街

栄まで一本
超便利！

ランチや
買い物に
気軽にお出かけ
できる

便利な故の弊害も

渋滞や
満員電車
解決したい！

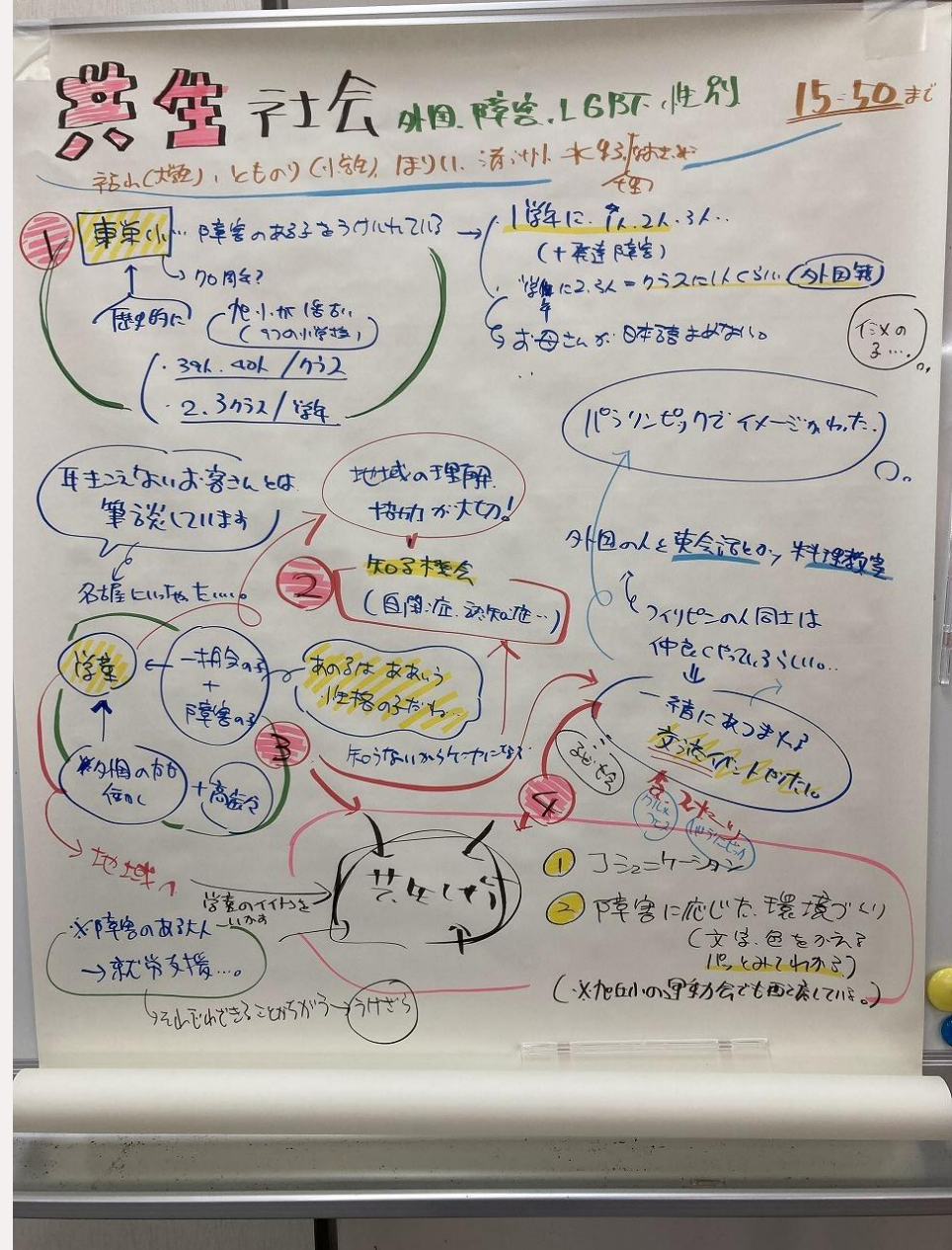
ワークから抽出した
三郷のアイデンティティ

私たちの三郷は こんな街

ワークショップ 2

8つの未来キーワード
を三郷に落とし込む。

〔2040問題／コンパクトシティ／
気候変動／持続可能性／DX／次世
代モビリティ／共生社会／ワークス
タイルの変化〕



「共生社会」の語り合いの例

→再開発事業の基本設計 デザインWSへ (2022)

個人の幸せと 都市の豊かさ →マイパブリック

田中元子氏の知見をまちに拓く

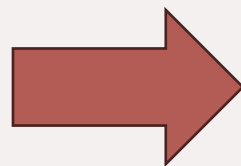


マイパブリックと公共、幸福

- ・ 人間の幸福の三原則（アドラー心理学）、①自分が好き、②他人が信頼できる、③自分が社会の役に立っている。
- ・ →田中元子「第三の趣味」：自分が好きなことが、他人の喜びや楽しみにつながる（役に立ってしまう）趣味。
- ・ 大きな公共（政府、行政）：崇高、立派、義務、富の再分配
- ・ 小さな公共（私たちの）：カジュアル、好き、貧しさ無関係
- ・ ※ハーバーマスの「公共圏」を参照。

魅力的な公共施設（空間）の**実現術**

田中元子（建築コ
ミュニケーター）
が提唱する
**マイパブリック
パーソナル屋台**



- ①自分が好きなこと、
趣味
+
- ②他人の楽しみにも
なる、役立つ
+
- ③お金を介在しない、
無料の

趣味のお金の使い方の
延長で考える。

参考：パーソナル屋台の先にあるもの→豊かなパブリック空間

BRYANT PARK

THINGS TO DO

SHOP + EAT

PARK SHOP

search

TODAY IN BRYANT PARK



The lawn is open from 5pm-9pm.

パペットショー



TODAY AT 10:00AM

LE CARROUSEL EXTRAVAGANZA

Puppet Show - The
Colors of Frida/Los
Colores De Frida

犬を描こう



TODAY AT 11:30AM

ART CART

Dog-Friendly
Fireworks Scenes



ジャグリング



TODAY AT 12:00PM

JUGGLING

Juggling Class



今日のブライアントパーク (NY)



TODAY AT 3:30PM

MIDTOWN MUSIC

Triad Brass

音楽



TODAY AT

ゲーム

GAMES

Settlers of Catan
Social



TODAY AT 6:00PM

ヨガ

YOGA

Yoga with Sarah
Platt-Finger



TODAY AT 12:00PM

JUGGLING

ジャグリング Class



TODAY AT

ピアノ

PIANO

Brennen Ernst



TODAY AT 1:30PM

KNITTING

Knitting

手芸

人が人を呼ぶ

マイパブリック実践

三郷駅前まち育て2025





主催：尾張旭市 共催：愛知県立芸術大学

協力：三郷駅前地区市街地再開発組合、CiINA CiINA 尾張旭、愛知県森林公園（株式会社ウッドフレンズ）、株式会社アール・アイ・イー

What's 35Fes

本イベントは、三郷駅前まち育てプロジェクトの一環であり、三郷駅前付近を魅力的なまちにしていくために市民の想いをカタチにする場として実施するものです。本プロジェクトを通じて、市民の想いをデザインし、まちへの提案と三郷駅周辺の新しい価値を創造します。

2025.10.25 SAT
10:00-15:30

35Fes 全体 MAP



35

まちをおもしろくする企画がたくさん！

「愛知県森林公園」「三郷第七駐輪場」「CiINA CiINA 尾張旭」の3スポットに、35フェスの屋台がずらりと並び、歩くだけでワクワクが広がる特別な一日。今回のフェスでは、35フレンズが自分の“好き”をぎゅっと詰め込んだ屋台を出店。A～Cの3チームに分かれて、それぞれ全く異なるコンセプトと魅力あふれるメニューや体験を届けます。

35フェス

笑顔あふれるクラフト体験！

10.25 土 10:00-15:30

於：CiINA CiINA 尾張旭 東入り口広場

〈入場無料・雨天は室内で実施〉



6人の仲間が集まってつくる“クラフトひろば”
親子で楽しめる手づくり体験が盛りだくさん
さらに、パパやママには嬉しいこだわりコーヒーもご用意
親子で一緒に、ワクワクの一日をお過ごしください



Cエリア (CiiNACiiNA)





Bエリア (市営駐輪場)



町内のお祭り
との融合



Aエリア (森林公園)



市民も行政も事業者も地域も自然も結ぶ
三郷駅前まち育てプロジェクト

2026年

三郷駅前再開発事業の工事着手に向け、
既存建物の解体工事が開始（2030竣工予定）

→取り壊す街区を舞台に、
「まち納め感謝祭」2026.5開催！





都市戦術：4つのポイント

岡崎康生地区の都市再生がヒントになっています

1 まちづくりスタジオ

- 2004 りぶらのデザインワークショップをやっている時に「ワークショップに行けない人でも、ふらりと立ち寄れて、施設計画のことを知れる、一言言える場、拠点があるといい」
- ※元ネタは、九州での「まちづくり情報銀行（銀行の待合空間に、まちづくり情報が掲示され、意見も残せる仕掛け」。
- →東康生地区内の空き店舗に、まちづくりスタジオを設置（建築設計者もコーディネーターもほぼ常駐）
- →尾張旭では、再開発の地権者さんに協力いただき、35スタジオを設置（設計を担当するRIAのスタッフがほぼ常駐）。



空き店舗を活用した常設型まちづくりスタジオ
(設計士＋コーディネーターが常駐)

尾張旭市 三郷地区

フレンズによる定期的寄合
(週1から月2回程度)も！



35スタジオ (主宰：RIA)



TEAルーム →出張

2 対話と協働



2004

市民、学生、事業者、行政が対等
な立場で話し合う創発の場。

ワークショップ

= 学習、交流、研究、対話、工房。

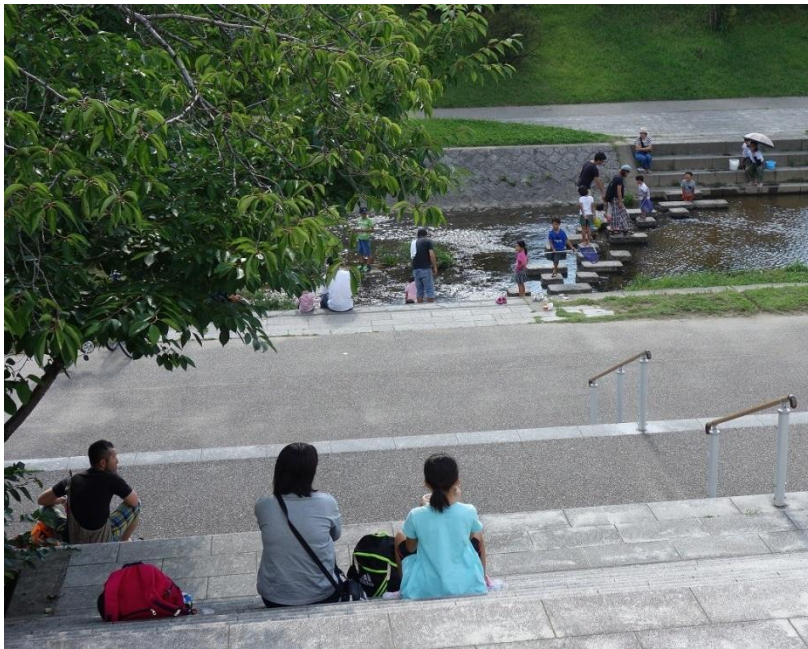


岡崎市図書館交流プラザ りぶら



平日1日4500人、休日1日6000人、
年間140万人が利用するLibra。

市民参加でデザイン →川、緑、図書館の連続性





※ 1拠点方式の限界

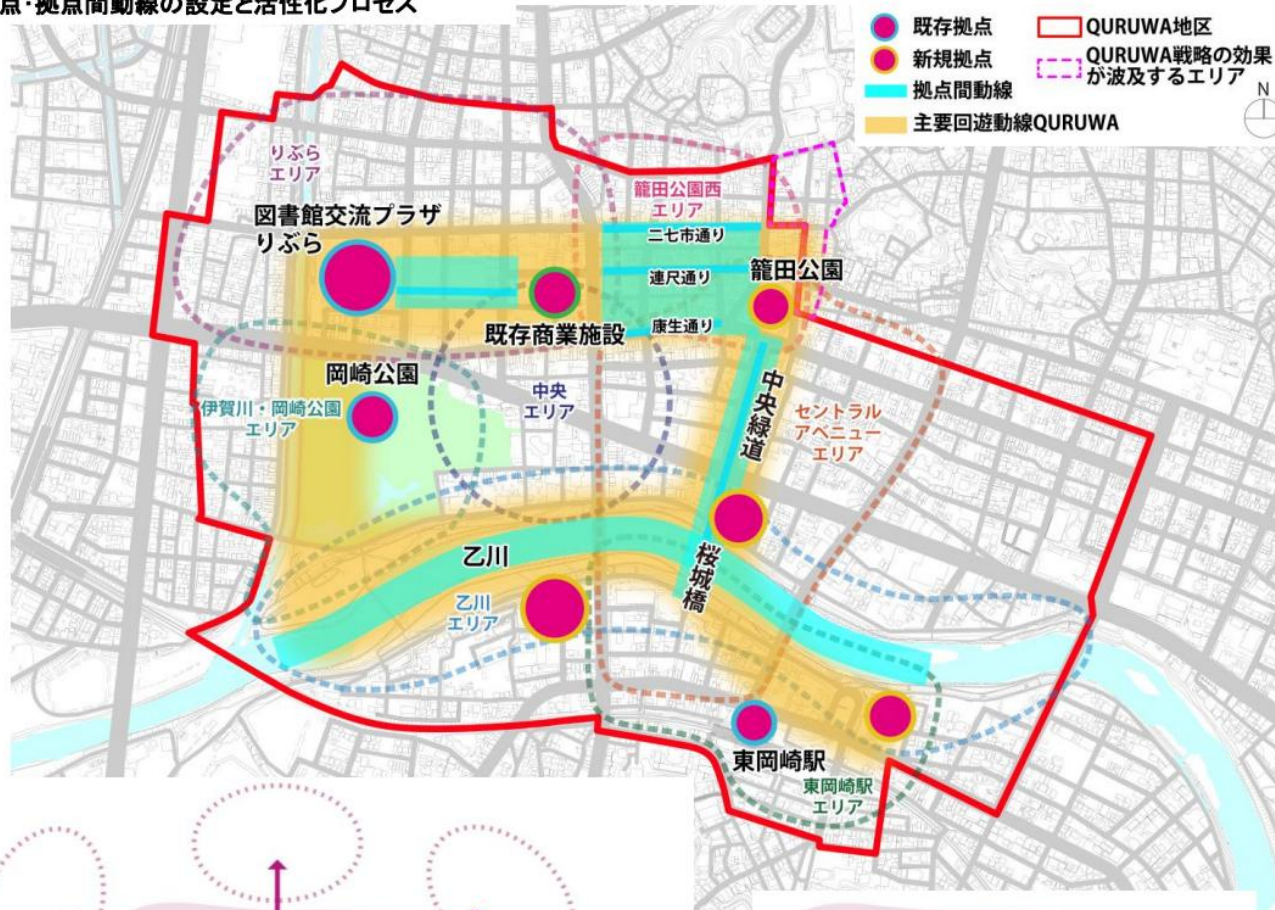
- 圧倒的な来場者数、市民参加による施設プログラム（託児、むかし語り、りぶら講座、シネマドリぶら、外国人らによるのど自慢大会他）により、量、質共に高い施設運営（**プレイス**メイキング）は実現。
- りぶらの計画では「りぶらにきた市民が、周辺地区に出向き、中心市街地活性化の起爆剤になる想定」だった。
- しかし開館後、施設周辺に影響をもたらしたのは限定的だった（200m先の商業施設の飲食店街は売り上げが爆増／物販は振るわず／松坂屋は撤退）。
- →**エリア**マネジメントの不在（2008時点）→→QURUWA2018

3 敷地に価値なし、エリアに価値あり

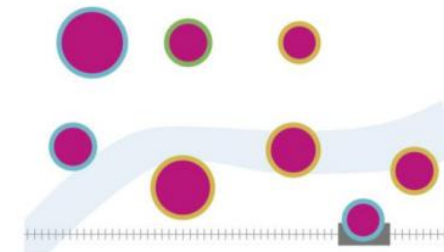
- 清水義次氏（康生地区のリノベーションまちづくりをプロデュース／建築都市地域再生プロデューサー／日本のリノベーションまちづくりの先駆者）の言葉。
- 敷地単体、その敷地の上にある建物単体でよいお店などができたとしても、エリア（まち）として魅力向上につながらない。
- 清水氏は、土地の価格断層が起きている地区で集中的に複数店舗、面白い店舗が動き出すと、都市に変化が生まれると指摘。
（書籍：リノベーションまちづくりを参照）

QURUWA戦略

拠点・拠点間動線の設定と活性化プロセス

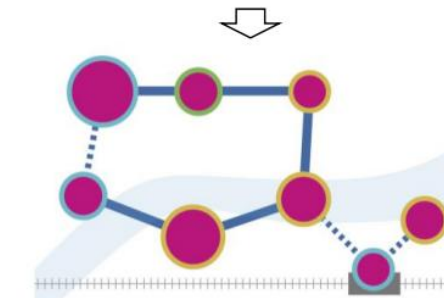


QURUWA戦略による 活性化プロセスイメージ



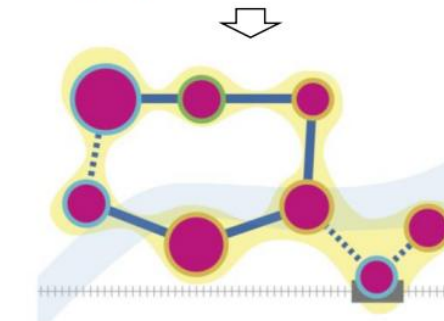
拠点の設定

QURUWA上の徒歩5分圏内の既存集客施設と公共空間に拠点を設定



拠点間動線の設定

QURUWA上の拠点をつなぐ拠点間動線を設定



周辺エリアや市内他地区への波及

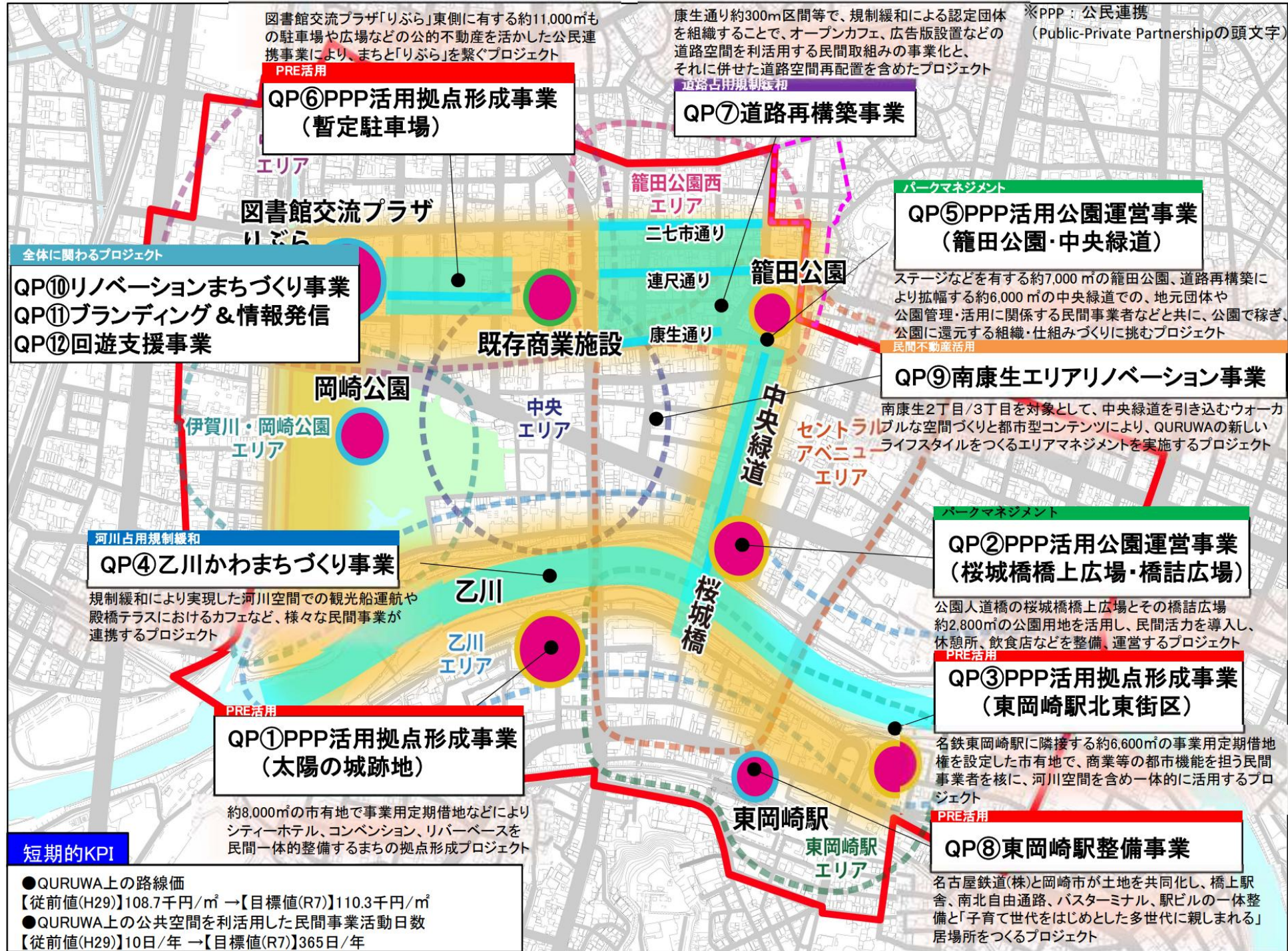
QURUWA地区の公民連携まちづくりの波及効果で、周辺エリアや市内他地区の価値・暮らしの質が向上し、経済循環・エネルギー循環・企業連携・人的交流を実現

エリアへの波及

波及効果でエリア全体の価値・暮らしの質が向上

主要回遊動線の実現

各拠点・拠点間動線上において公民連携プロジェクト(QURUWAプロジェクト)を実施することで回遊を実現



N YのN P O法人のツール「Power of 10+」によれば、都市が新しい住民、ビジネス及び投資を引きつけるには、どのような規模の都市も、

- ・最低10箇所、人々が居たいと思う目的地（広場、大通り、ウォーターフロント、公園、美術館等）を有する必要がある、
- ・各目的地に、10か所以上の場所（座る場所、遊ぶ場所、絵を描く場所、音楽を聴く場所、食べる場所、歴史を感じる場所、人に会う場所等）があることが必要とされている。

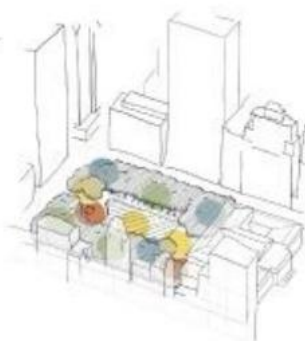
POWER OF 10+

HOW CITIES TRANSFORM THROUGH PLACEMAKING



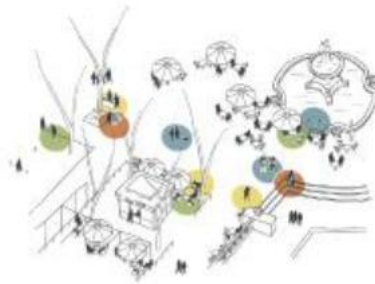
City/Region

10+ MAJOR DESTINATIONS



Destination

10+ PLACES IN EACH



Place

10+ THINGS TO DO,
LAYERED TO CREATE SYNERGY



豪・メルボルンの広場：

一つのスペースを誰一人として同じ使い方をしない。

第6回都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会
令和元年5月9日 国土交通省都市局

4 都市再生と自治再生

- 岡崎QURUWA（グッドデザイン賞・金賞2023）の場合、
 - ①行政主導：都市基盤整備（公園、緑道ほか）
 - ②事業者主導：リノベーションまちづくり（空き店舗活用）
 - に加えて
 - ③地域主導：自治再生
 - が巻き起こったことが全国的にみて評価された。
-
- ※ QP②（橋上広場活用）、QP⑥（りぶら前駐車場活用）を主導しているのは籠田公園周辺7町広域連合会（次世代の会）

籠田公園周辺の動き

清水義次氏（建築・都市・地域再生プロデューサー）曰く「行政主導の大きなリノベーション」＋「民間主導の小さなリノベーション」。

→両輪が機能することが重要（両輪を噛合わせる中間支援組織も重要）。





籠田公園

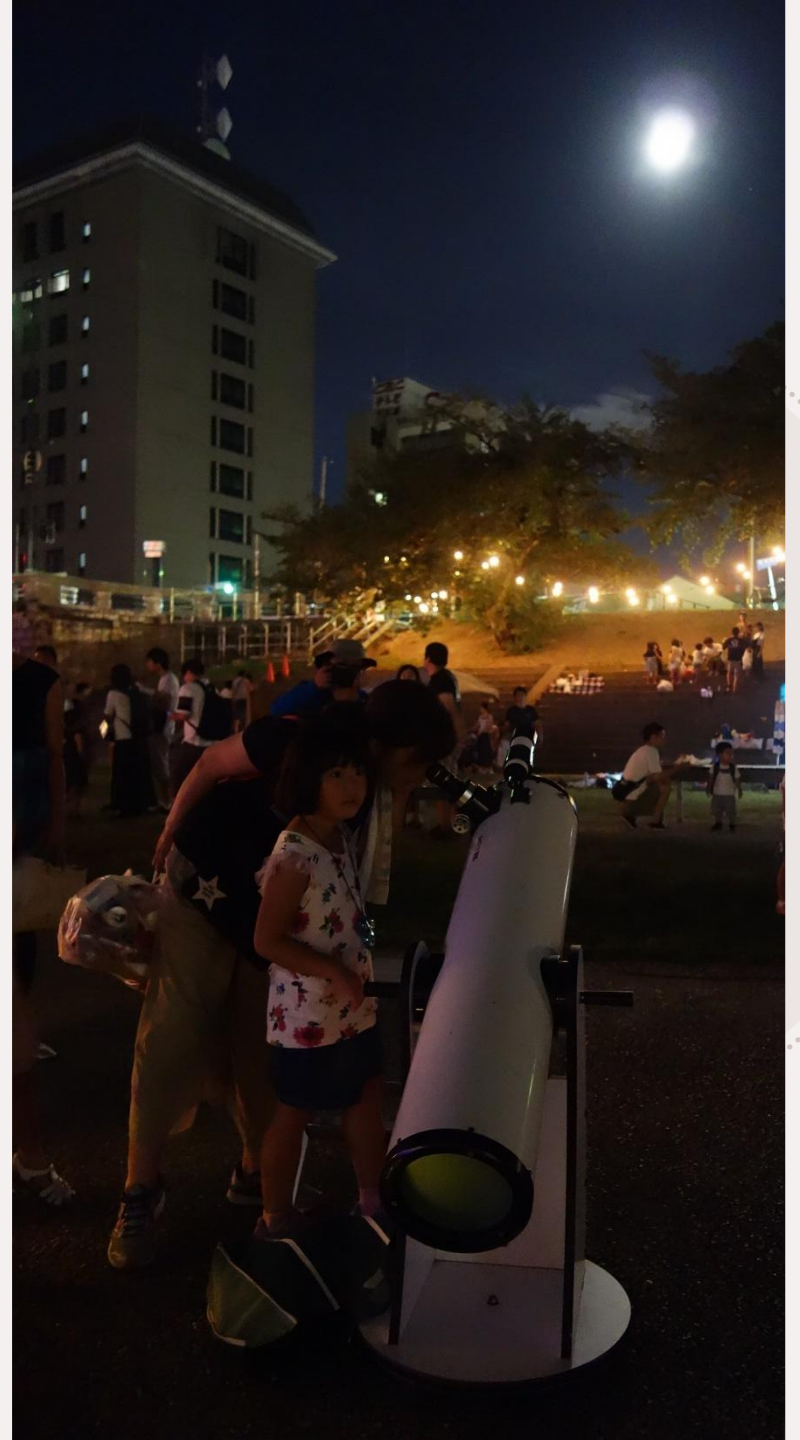
行政による
大きなリノベ

中央緑道



桜城橋

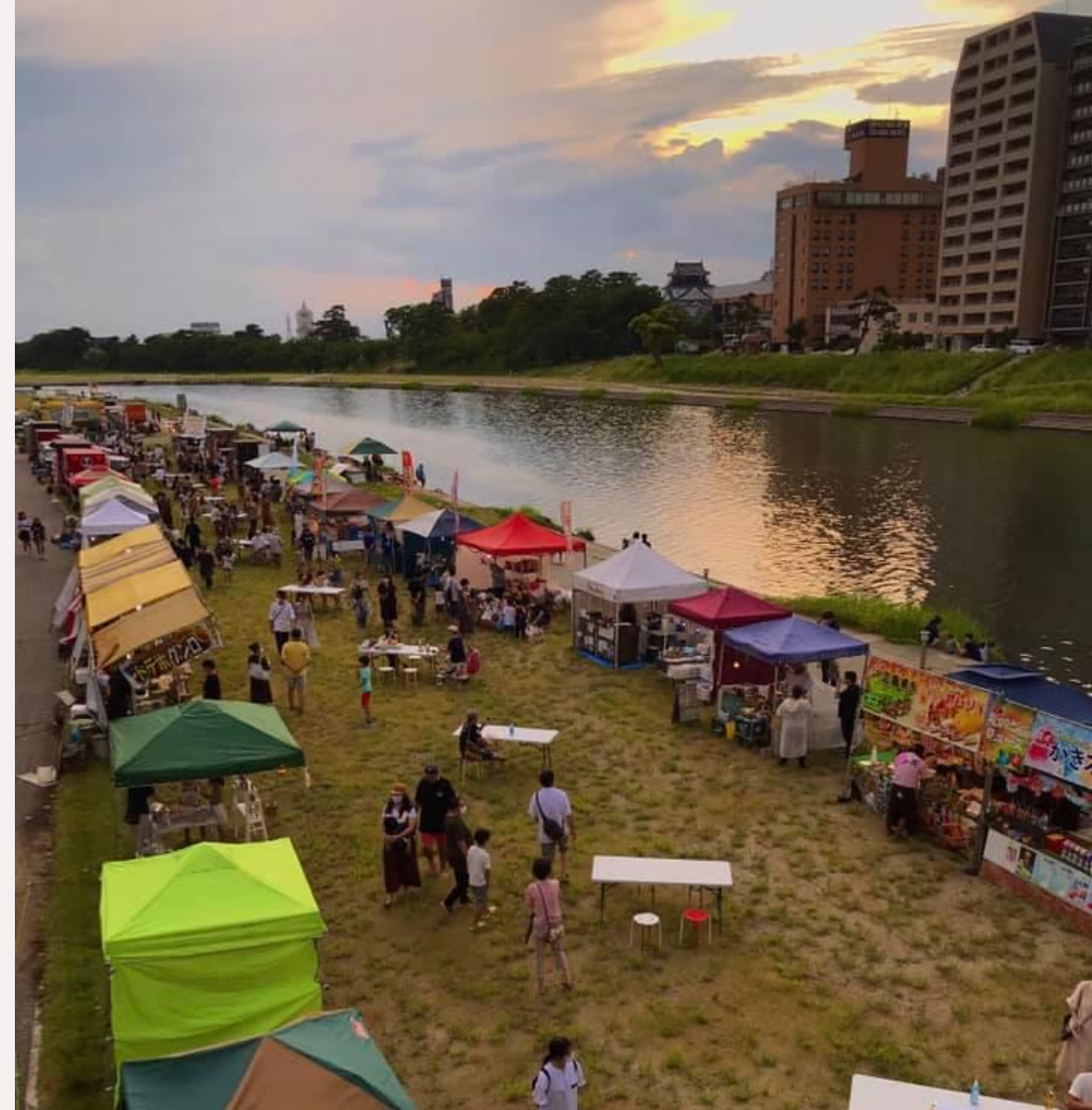
Let it
camp



乙川ナイトマーケット (月1回：1500人)



5000人



ナイト・エコノミー

キッチンカー、ラーメン屋、シェアハウス、カフェ、焼き菓子屋、ジェラート屋、ハンバーガー店、ホテル etc.



民間による
小さな
リノベ



籠田公園の日常 (2019.7-)



公園活用から始まる 町内会等の協働

★30年ぶりの盆踊り復活
(企業協賛により町内会
負担ゼロ)



・ 籠田公園周辺3町内→
「籠田公園周辺7町・広域
連合会」へ。

→月例会には、地域役員、
ボランティア、事業者、
行政職員60名が参加。

※町内会は人口減少、高齢化率4割



盆踊り



健康体操の普及

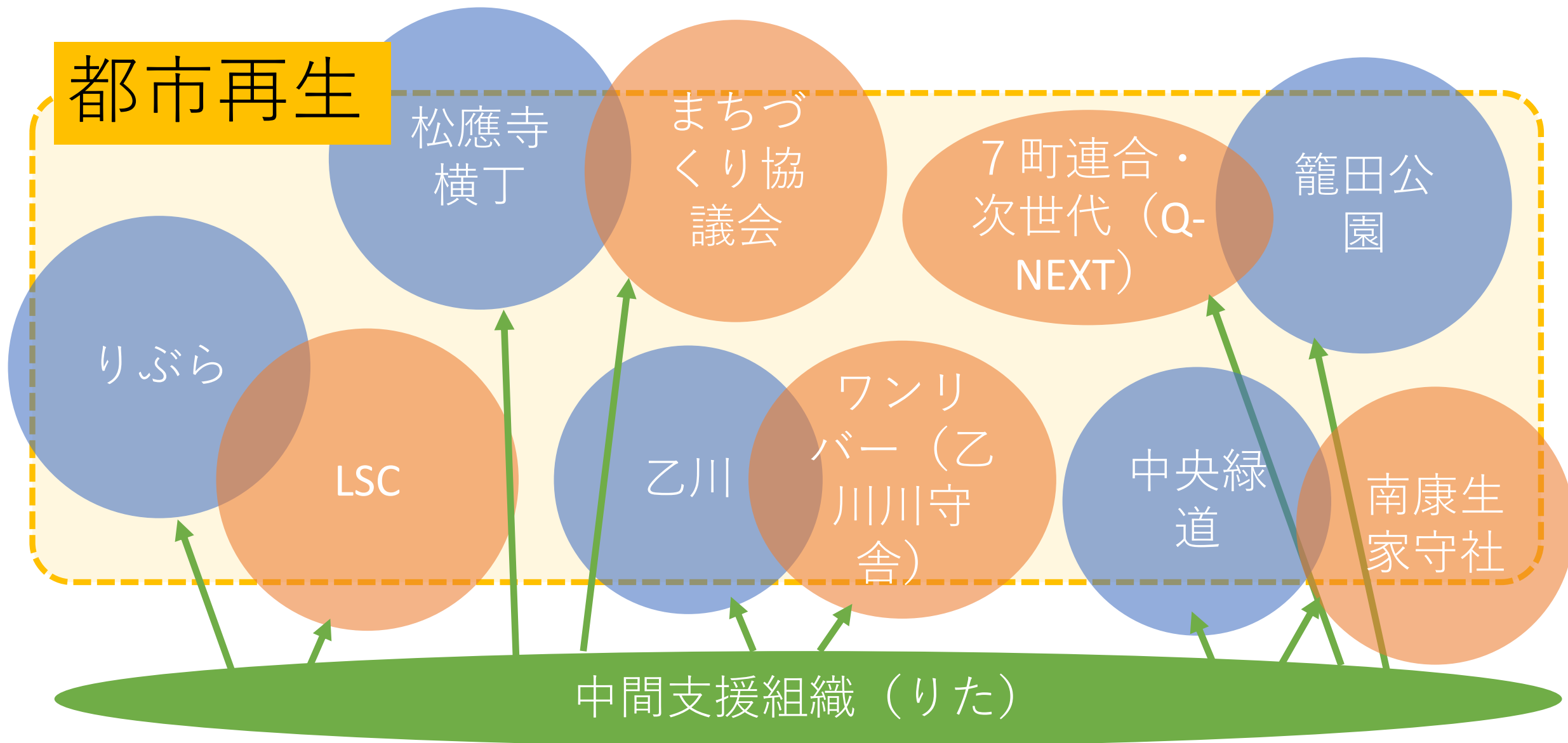
分科会A:地区外の人からの
問い合わせ窓口づくり
(例:空き家と出店者マッ
チング→家守会社)

分科会B:地区住民の困りごと
解決の仕組みづくり (例:生活
支援サービス事業→市民事業)



KCBM (7町広域連合) 次世代の会 (210718)

【解説】 中間支援組織によるまち育て（拠点づくり×人育て）



市民（事業者、行政）一人一人（**個々**）の「こんなまちになったらイイナ」から始まる＋対象とするまち、場所（**ここ**）の歴史や文化、経済、環境への深い理解から始まる＝「**ココ**から始まるまち育て」！



Fin.